

夏の会員総会

もてる男になる方法

元宝塚歌劇団星組スター桐生のぼるさんを迎えて

8月30日(土)13時～16時30分 於：ノボテル甲子園

夏恒例の今年の会員総会は宝塚歌劇100周年を記念して次のような要領にて開催いたします。同窓の先輩、同輩、後輩、友人、知人お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。ご家族の同伴も歓迎です。

<第1部>式典と講演会
(13時～14時30分)

演 題 「もてる男になる方法」
講 師 桐生のぼるさん
(元タカラジェンヌ)



今年は宝塚歌劇100周年の年にあたり、世間でも様々なイベントが行われています。そこでわが甲陽同窓会でも、元タカラジェンヌの桐生のぼるさんをお招きすることにしました。桐生のぼるさんは宝塚時代、男役と娘役双方を演じられた経験をお持ちです。そうした経験をもとに今回は「魅力的な男とは？」や「もてる男になる方法」を語っていただきます。すべての同窓生が興味を持つであろうテーマです。ふるってご参集ください。

桐生のぼるさんは神戸市出身・在住で、株式会社P E T I P A代表取締役。岡本紳平さん(84回)のお母様でもあります。宝塚歌劇団星組にて若手男役ホープとして活躍。「バルサイユのばら」オスカル役などで人気を得た後、娘役に転向。12年5カ月で退団されました。結婚後は3人の子育てをしながら、舞台制作・演出・振付を手懸け、宝塚パウホールや新神戸オリエンタル劇場でプロデュース公演を開催されました。2006年には兵庫県県の依頼で、のじぎく兵庫国体「はばタンダンス」を振付。2006年から主催する幼稚園教諭・保育士のための「みんなができるダンス・お遊戯研修会」は全国展開となっています。現在は、企業・女性向けのセミナーや講演、接客研修などでご活躍中です。著書には『夢みる力は輝く力』、そして四月に発売された『なぜ下級生は廊下を直角に歩くのか?』があります。

ご講演では、宝塚時代の思い出やご著書のことなどもお取りまぜてお話しいただきます。ご講演のあと、文化プロデューサーの河内厚郎さん(52回)との対談を行う予定です。

また、桐生さんの著書『なぜ下級生は廊下を直角に歩くのか?』を会場にて販売し、サイン会も実施する計画です。

<第2部>ショータイムと懇親パーティー
(14時45分～16時30分)

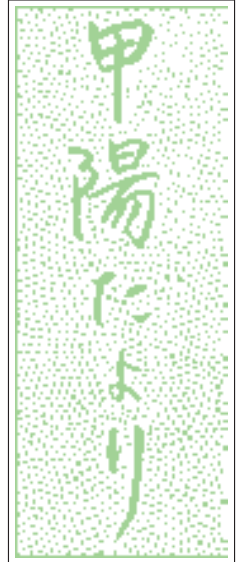
第2部は会場を「甲陽の間」に移して懇親会です。今年は、パーティーに彩りを加え、華やいだ雰囲気にするために、ゲストの桐生のぼるさんとお仲間による15～20分のショーを企画しています。宝塚歌劇100周年をイメージしたショーとなる予定です。

そのあとはパーティー。懐かしい恩師の先生方、同窓の友人たちを囲みながら、ご寄贈いただいた清酒「白鹿」やサントリーのビール・ウイスキーに酔いしれながら、楽しい午後のひと時を過ごしましょう。45回生の坂上和夫さん率いる「レオマカナ」のフラミュージック演奏がきっといっそう会をなごやかに盛り上げてくれることでしょう。

今回の主役、ホームカミング学年は、45回(卒業50年)、60回(卒業35年)、70回(卒業25年)です。舞台への登壇、記念品の贈呈を予定していますので、是非ご参加ください。

なお、昨年に引き続き今回も総合司会は高橋知裕さんをお願いしています。読売テレビ「奥様情報BOX」や「日本直販テレビショッピング」などテレビでご活躍中の女性です。ご期待ください。

申込方法・会費などは最終ページ上をご覧ください!



発行所
〒662-0096 西宮市角石町3-138
甲陽学院同窓会
発行人 西村貞一
印刷所
株式会社小西印刷所
西宮市今津西浜町2番60号
TEL (0798)-33-0691
同窓会事務局専用
TEL 0798-71-4888
(月・水・木 10:00～16:00)
FAX 0798-71-4890
E-mail :
fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp
同窓会ホームページ
<http://www.koyogakuin-oba.jp>





白鹿クラシックス

Hakushika Classics

レストラン&カフェ AM11:00～PM19:00 <small>(ラストオーダーPM19:30)</small> 明治時代の酒蔵を シック&カジュアルな程空間に。	ミュージアムショップ AM11:00～PM7:00 観光ならではの、 お酒にまつわるアイテムが大充実。	酒ミュージアム 白鹿記念酒造事務所 AM10:00～PM5:00 <small>(入館は4時30分まで)</small> 日本固有の文化「酒づくり」を是非体験。
0798-35-0001	0798-35-0286	0798-33-0008

会 務 報 告

平成26年4月25日に行われました同窓会役員総会における議論を中心に、会務についてご報告いたします。

1 平成25年度活動報告

会報編集委員会の森口委員長から、第88号を7月25日付で、第89号を3月10日付で発行したことが報告されました。

次に会員総会運営委員会について、昨年の8月31日に行われた会員総会について、228名の参加があったことや、収支(約20万円の支出超過)についての報告がありました。

甲陽ファン管理委員会の泥委員長からは、平成25年度の募金総額が2,398,000円であったこと、平成26年3月までの収入総額が、利息収入を含めて58,502,515円となっていること、現在まで延べ61名の在校生に一人年額20万円が支給されてきた実績などが報告されました。

2 平成25年度決算報告・監査報告

下に掲載の決算報告書が今西副会長から説明され、二宮監事、水島監事、植木監事からの監査報告を受けて、平成25年度決算が承認されました。

● 平成25年度 決算報告書 ●

[収入の部]			[支出の部]				
科 目	決算額	予算額	差引額	科 目	決算額	予算額	差引額
会 費	9,949,000	9,300,000	649,000	人件費	2,099,360	2,116,000	△16,640
年会費	1,422,000	1,300,000	122,000	月手当	1,536,000	1,536,000	0
終身会費	1,397,000	1,500,000	△103,000	夏冬手当	320,000	320,000	0
新卒入会金	1,212,000	1,200,000	12,000	通 勤 費	243,360	260,000	△16,640
新卒年会費	2,828,000	2,800,000	28,000				
新卒終身会費	3,090,000	2,500,000	590,000	交 通 費	0	100,000	△100,000
				需 用 費	521,143	860,000	△338,857
会報広告料	90,000	60,000	30,000	通 信 費	325,894	400,000	△74,106
総会会費収入	1,180,500	1,300,000	△119,500	事務消耗品費	81,009	60,000	21,009
利子収入	10,124	10,000	124	備 品 費	0	100,000	△100,000
ストラップ収入	0	0	0	IT関係費	114,240	300,000	△185,760
フォトフレーム	0	0	0	会 議 費	2,174,311	2,500,000	△325,689
雑 収 入	0	0	0	会員総会費	1,387,841	1,500,000	△112,159
寄 付 金	0	0	0	役員総会費	202,188	250,000	△47,812
収入合計	11,229,624	10,670,000	559,624	理事会費	185,094	250,000	△64,906
				委員会費	221,052	300,000	△78,948
特別積立金繰入	0	0	0	懇談会費	178,136	200,000	△21,864
基本金解約				事 業 費	3,238,957	3,590,000	△351,043
繰 越 金	9,688,795	9,688,795	0	甲陽だより	1,026,786	900,000	126,786
				郵 送 料	1,414,413	1,600,000	△185,587
合 計	20,918,419	20,358,795	559,624	振替用紙	133,465	140,000	△6,535
				封 筒	191,710	200,000	△8,290
◎H26年3月末日現在 現預金残高明細				記 念 品	298,750	400,000	△101,250
*三井住友銀行(普通預金)	6,454,546円			母校後援費	88,400	200,000	△111,600
*郵便局(普通預金)	315,267円			地域活動費	85,433	150,000	△64,567
* // (振替通知票)	8,670,440円						
*三菱信託銀行(普通預金)	1,298,600円			雑 費	129,789	290,000	△160,211
*手持現金	190,806円			校 内 志	30,000	40,000	△10,000
合 計	16,929,659円			慶弔その他	15,000	100,000	△85,000
甲陽F預かり金	4,188,300円			振 替 料	81,380	100,000	△18,620
合 計	12,741,359円			その他雑経費	3,409	50,000	△46,591
				支 出 合 計	8,163,560	9,456,000	△1,292,440
				特別積立金繰入	13,500	13,500	0
				新基本金繰入	0	0	0
				予 備 費	0	10,889,295	△10,889,295
				支 出 総 計	8,177,060	20,358,795	△12,181,735
				収入総計	20,918,419		
				支出総計	8,177,060		
				翌年繰越金	12,741,359		

本日、会計監査の結果、帳簿と金額に相違ないことを、ここに確認いたしました。

監 事 二宮一明 印
水島昇 印
植木努 印

(単位：円)

3 平成26年度活動方針と予算・会長改選

平成26年度の活動方針として、会報編集委員会からは従来通り年2回の会報発行の方針であること、会員総会運営委員会からは8月30日の会員総会の概要(詳細は本紙1頁)が述べられました。

甲陽ファン管理委員会からは、新機軸として従来の奨学金だけでなく、母校で優秀な活躍をした新卒生に賞品を贈呈する計画が述べられました。

また会員名簿委員会からは、母校創立百周年(平成29年)を記念して会員名簿を発行する、今年度中に掲載項目の決定・運営体制の整備を行う旨の報告がありました。

その上で、今西副会長より下に掲載の予算書の説明が行われ、承認されました。

最後に会長の任期満了に伴い、会長の選任が行われ、満場一致で西村貞一氏(45回)の再選が決定しました。

● 平成26年度 予算書 ●

[収入の部]			[支出の部]				
科 目	H26年度	H25年度決算	H25年度予算	科 目	H26年度	H25年度決算	H25年度予算
会 費	9,000,000	9,949,000	9,300,000	人件費	2,116,000	2,099,360	2,116,000
年会費	1,300,000	1,422,000	1,300,000	月手当	1,536,000	1,536,000	1,536,000
終身会費	1,300,000	1,397,000	1,500,000	夏冬手当	320,000	320,000	320,000
新卒入会金	1,170,000	1,212,000	1,200,000	通 勤 費	260,000	243,360	260,000
新卒年会費	2,730,000	2,828,000	2,800,000				
新卒終身会費	2,500,000	3,090,000	2,500,000	交 通 費	100,000	0	100,000
				需 用 費	1,060,000	521,233	860,000
会報広告料	60,000	90,000	60,000	通 信 費	400,000	325,894	400,000
総会会費収入	1,300,000	1,180,500	1,300,000	事務消耗品費	60,000	81,009	60,000
利子収入	10,000	11,245	100,000	備 品 費	100,000	0	100,000
ストラップ収入	0	0	0	IT関係費	500,000	114,240	300,000
フォトフレーム	0	0	0	会 議 費	2,500,000	2,174,311	2,500,000
雑 収 入	0	0	0	会員総会費	1,500,000	1,387,841	1,500,000
寄 付 金	0	0	0	役員総会費	250,000	202,188	250,000
収入合計	10,370,000	11,230,745	10,760,000	理事会費	250,000	185,094	250,000
				委員会費	300,000	221,052	300,000
				懇談会費	200,000	178,136	200,000
				事 業 費	3,690,000	3,240,898	3,590,000
繰 越 金	12,740,539	9,688,795	9,588,795	甲陽だより	1,100,000	1,026,786	900,000
				郵 送 料	1,500,000	1,414,413	1,600,000
収入総計	23,110,539	20,919,540	20,348,795	振替用紙	140,000	133,465	140,000
				封 筒	200,000	191,710	200,000
				記 念 品	400,000	298,750	400,000
				母校後援費	200,000	88,400	200,000
				地域活動費	150,000	87,374	150,000
				雑 費	280,000	129,789	290,000
				校 内 志	30,000	30,000	40,000
				慶弔その他	100,000	15,000	100,000
				振 替 料	100,000	81,380	100,000
				その他雑経費	50,000	3,409	50,000
				支 出 合 計	9,746,000	8,165,591	9,456,000
				特別積立金繰入	0	13,500	13,500
				新基本金繰入	0	0	0
				予 備 費	13,364,539	0	10,889,295
				支 出 総 計	23,110,539	8,179,091	20,348,795

(単位：円)

甲陽ファンドで新機軸、優秀生徒を表彰

平成17年度から募金活動を始めた甲陽ファンドは、すでに募金総額が5,800万円を超え、この間延べ61名の母校在校生に奨学金（年額20万円）が支給されてきました。昨今の社会情勢から母校の後輩たちを取り巻く経済環境は決して良好とばかりは言えず、同窓会の奨学金は、間違いなく母校と在校生にとって有意義なものであります。

このたび甲陽ファンドの用途として新たな試みを始めるとしました。すなわち、経済困窮者への奨学金とは別に、母校在校中に学業やスポーツなどの課外活動で素晴らしい成果をおさめた後輩に同窓会から賞品を贈呈しようという試みです。今年度は、この春卒業した95回生の中から在校中に日本化学会の化学グランプリで金賞を受賞した阿知波亮君に差し上げる予定です。

同窓生の皆様には、引き続き甲陽ファンドへの醸金をどうぞよろしく願いいたします。

平成26年1月1日から5月31日までにファンドに醸金くださいました方々のご芳名を以下に掲載いたします（敬称略）。まことにありがとうございました。（平成25年12月31日以前に醸金された方は73号～89号に掲載しております。）

11回 田中 親七	37回 十河 尚	51回 内田 邦彦	62回 国府 力
20回 川島 茂	38回 高寺 美慈	51回 近藤 友之	62回 長宅 芳男
25回 堀 四郎	38回 羽田 英彦	51回 佐野 良彦	62回 吉岡 泰彦
27回 光野 昭	38回 松林 輝芳	51回 宮本 孝正	64回 岡原 正周
31回 富士川真二郎	39回 加輪上敏彦	51回 横田 真彰	64回 黒田 良平
31回 八木 頼夫	39回 榑 靖夫	52回 土居 章展	65回 植木 努
33回 大幡 嘉春	43回 水上 進	54回 中野 茂	68回 森 健
33回 二宮 一明	45回 岩田 博次	55回 桜井 太郎	69回 大津 雅亮
33回 森下 哲志	45回 岡本 定行	55回 鈴木 博正	72回 小北 隆夫
34回 江隈 一夫	45回 小林 智夫	56回 安台 勝哉	72回 藤澤 千浩
34回 横内 昭	45回 中田 泰洋	57回 岩田 圭一	72回 山本 泰典
35回 国領 薫	45回 西村 貞一	57回 岡 誠	74回 徳岡 俊治
35回 長縄 伸也	46回 井上 康宏	57回 芝原 功	75回 福本慎一郎
36回 鮎貝 盛和	46回 近藤 宏	57回 中村 卓司	81回 山脇 敬博
36回 中田 俊士	46回 堀口 貞茲	59回 井上 尚三	91回 康 欣哲
36回 福田 達	47回 大沼 光夫	59回 島本 佳憲	95回生 育友会
36回 水口 大和	51回 井阪 博	60回 阿多 博文	

【醸金方法】

- 同封の振込用紙を利用し、通信欄に「ファンドへの醸金の旨を明記して」、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、
- 三菱東京UFJ銀行芦屋支店 普通口座3998990 口座名義 甲陽学院同窓会奨学金ファンド にお振り込み下さい。
(2)の場合、振込人の卒業回生が分かるようにお願いします。

平成26年度 同窓会役員

平成26年度の甲陽学院同窓会の役員は以下のとおりです。

役職	氏名	回生	役職	氏名	回生
名誉会長	有田和男	31	専務理事	箱田光信	57
会長	西村貞一	45	常務理事	中野忠夫	44
副会長	宗田久雄	高商1		西村公男	46
	泥光重	39		山崎仁嗣	47
	揚野寛	45		河内厚郎	52
	辰野久夫	51		吉井友実	54
	今西昭	57		森口匡	55
相談役	平田豊	22		嶋吉由喬	62
顧問	横内昭	34		久義裕	62
	尾山啓二	35		梅谷幸弘	67
	中村貞三	35	監事	二宮一明	33
	田村真也	36		水島昇	49
	守殿貞夫	41		植木努	65
	宮崎恒彰	42			
	大川貴史	55			

終身会費納付額設定表(平成26年4月1日～平成27年3月31日まで)

95回～89回	30,000円	75回	37,000円	61回	23,000円
88回	50,000円	74回	36,000円	60回	22,000円
87回	49,000円	73回	35,000円	59回	21,000円
86回	48,000円	72回	34,000円	58回	20,000円
85回	47,000円	71回	33,000円	57回	19,000円
84回	46,000円	70回	32,000円	56回	18,000円
83回	45,000円	69回	31,000円	55回	17,000円
82回	44,000円	68回	30,000円	54回	16,000円
81回	43,000円	67回	29,000円	53回	15,000円
80回	42,000円	66回	28,000円	52回	14,000円
79回	41,000円	65回	27,000円	51回	13,000円
78回	40,000円	64回	26,000円	50回	12,000円
77回	39,000円	63回	25,000円	49回	11,000円
76回	38,000円	62回	24,000円	48回～	10,000円

学校だより



お世話になりました

昨年度をもって9名の方が甲陽学院をご退職になりました。山内英正先生(1973年着任、社会・地歴)、北畑健一先生(1978年着任、英語)、山口治男先生(1982年着任、英語)、伊東良孝先生(1990年着任、社会・地歴)、金江俊先生(2013年着任、保健体育)、柴田好生先生(2013年着任、保健体育)、小椋哲也さん(2010年着任、事務長)、田村稔さん(2005年着任、校内整備)、佐々木俊行さん(2010年着任、校内整備)です。長い間ありがとうございました。

山内英正、北畑健一、山口治男、伊東良孝の各先生方からご寄稿頂きましたので以下に掲載いたします。



はや歴史の語り部に 山内 英正



大学院生の時、非常勤講師の話が国史研究室にあった。希望者が誰もいなかったため、巡り巡って、東洋史専攻の私が引き受けることになった。これが41年間に及ぶ甲陽学院との出会いとなった。地元の出身者でない私は、甲陽がどのような学校なのか全く知らなかった。

最初中学校で中学公民を担当し、憲法をめぐる諸問題と称して、判例研究なども試みた。続いて日本地理を担当することになり、日本中の市と鉄道線路の名称・位置を覚えさせるという徹底した詰め込みを強要した。琉球やアイヌの歴史、秩父事件や足尾鉍毒事件など、自分自身が調べている内容も語り続けた。知的好奇心に満ちた優秀な中学生たちのお蔭で、このような授業ができた。二十歳代に歴史ならぬ公民と地理を学べたことは、私にとっても収穫となった。そして何よりも、考古学者の高井悌三郎先生の大学レベルの講義内容に身震いするほど感動した。

やがて高校の宮川秀一先生の世界史の一部も担当するようになったが、先生からは学問の厳しさをいつも痛感させられた。夜中に電話で、古文書の解説についての指摘や考査問題についての質問が寄せられることもあった。大学院の演習以上に気が引き締まった。授業が終ると疲れ果てる毎日だったが、いつもここが踏ん張りどころと思い、宮川先生が最初に言われた「甲陽は教育をする場ではなく、学問をする場である」という言葉を反芻した。専任講師から教諭となり、高井先生が辰馬考古資料館の館長になられたので日本史を、さらに宮川先生が白鹿記念酒造博物館の館長になられたので世界史を担当することになったが、時たま日本史と世界史の二刀流となった。

学内では自発的校務として、考古遺物や震災・戦災史料、さらに甲陽高商・工専の校史史料の編纂に関わることができ、第一次史料による学びの機会を得た。白鹿と

白鷹の二つの博物館が身近にあり、そこで学べたことも幸いだった。両館では、私が蒐集した史料の展示や講演会までさせていただいた。

自由な校風のもと自己研修の機会を得て、折節、大学や私学教育研究所などで学べたことも有り難かった。世界史・日本近現代史・古代史と関連させた『万葉集』など、「メビウスの帯」作戦による雑学の徒で甲陽時代は終わったが、面白き教員生活だった。地歴科研究室と図書室・校史資料室は、私にとって「自由共和国(コムネ)」そのものだった。

去る3月30日、ノボテル甲子園ホテル甲陽の間で、卒業生の皆さんが大勢私のために、「最後の授業」を開いてくださった。学界・法曹界・官界・財界・マスコミ界など社会の第一線で活躍されている卒業生や、若い大学生に再会することができ、新たな活力をいただいた。感謝の気持ちでいっぱい。記念出版物の『歴史とともに-私記録-』の上梓が遅延したことを、この場を借りてお詫びする。

退職後も、講義・講演のレジュメ作成や締切原稿に追われ、現役時代とあまり変わらない日々。これからは第二の青春と思って、遣りたい事、遣り残した事、遣らねばならぬことに、一路邁進する決意である。

末筆ながら、百周年を迎える甲陽学院の益々の御発展と、諸先生方の御健勝、そして未来に輝く生徒と卒業生の皆さんの御活躍を祈り上げる。



36年間 北畑 健一



1978年より36年間、甲陽学院にお世話になり、この3月で定年退職しました。

大阪の私立高校で非常勤講師として3年間、その後、大阪の府立高校で3年間教鞭をとり、縁あって甲陽学院に赴任してきました。42年間の教員生活を終えることになりました。

甲陽学院での教師生活が始まったのは中学から。1年生の英語を担当しました。平戸ツツジが中庭に咲き乱れ、緑豊かな環境の中で生徒たちと一緒に勉強し、いろいろなことを諸先生方から教えていただいたのが、ついこの間のように思い出されます。木造校舎で、夏の暑さ、冬の寒さをそのまま感じとることができました。1993年夏に冷暖房完備の校舎が完成し、2学期からは真新しい校舎で学ぶことができました。

甲陽学院に赴任した年、高校の校舎が現在の角石町に移転したのでした。高校勤務の時は、一息つくとも、眼下には阪神間の景色が広がっていました。

甲陽学院での毎日の授業、クラブ活動、学校行事などを通して、生徒諸君とともに学びました。

全く同じ日というのはなく、毎日が新しい経験で、教える身でありながら、教えられることが多い年月を過ごすことができました。



学校だより



36年間教案を中心にした授業ノートを作成して、72冊目で幕引きとなりました。読み返して見ると、様々なことがよみがえってきます。

言語に興味がありますから、面白い表現を見つけると、あれこれ調べて、授業ノートに書き留めて、教材と関連づけて教室で紹介するのが楽しみでした。

言葉は、人の心・気持ち・思いなどを伝える手段の一つです。一つ一つの言葉には魂がこもっています。

生徒諸君には、まずは日本語の勉強を、そして英語さらには他の外国語を勉強して、言語を通して、視野を広めて欲しいと思います。

人との豊かなコミュニケーションを図るには、言葉を大切にしたいと思います。

甲陽学院で過ごさせていただいた36年間に感謝し、甲陽学院の発展を応援していきたいと思っています。

永きにわたってご厚誼をいただいた皆様方にお礼の言葉を申し述べ挨拶といたします。

32年を振り返って

山口 治男



甲陽学院での英語教員としての32年を振り返ると、1982年4月に中学校で69回生を3年間担当した後、72回生、78回生および85回生を6年間担任として持ち上がりました。生徒に対して「担任としては優しく、教科担当者としては厳しく」あろうと心掛けたつもりでしたが、初

めの頃は、6年間のベース配分がわからず、野球にたとえようと、直球ばかりを投げるピッチャーだったようです。

特に72回生で予習を怠った者には全訳の提出を課したり、やや厳しすぎたようですが、85回生や高等学校でのみ担任を務めた90回生と94回生に対しては、直球に変化球も交えて、投球の幅も広がったように思います。

担任ではなく、サブの教師として5つの学年を1年ずつ担当しましたが、86～88回生の中には、生徒を指名する際にくじ引きの道具としてトランプが使用されたことを覚えている方も多いことでしょう。

一般的に言って、甲陽生は数学や理科ほど英語は好きではないようなので、ラテン語など語源を活用した英単語の覚え方を紹介するなど、いろいろ工夫してみました。

どの学年にも英語に熱心に取り組む生徒が少なからず見かけられ、教える側としてもやりがいを感じる事ができました。また、若い頃は英文解釈に力を入れましたが、年月を経るにつれて、生徒の表現力向上のために、英作文に重点を置くようになりました。

クラブ顧問としては、硬式テニス部の牧辰人主将ほか7名の72回生が、1987年の夏に東京都稲城市で開催された全国中学校テニス選手権大会に出場して、団体戦でベスト8まで勝ち進むのを目の前で観ることができました。

2011年には、93回生の市川椋君、94回生の田中佑一君、

95回生の森田雅博君の3名が、福島県郡山市で行われた全国高校将棋選手権大会の団体戦に出場した際も、顧問として同行し、全国大会の雰囲気を感じてもらいました。

他にもさまざまなことがあった32年間で最も印象深かったことを、最後に書いてみたいと思います。

1990年代の前半までは中学校で毎年6月に校内球技大会があり、ソフトボールの中1優勝チームと先生チームが対戦するという特別のイベントが最後にありました。

試合が始まると、各先生の一挙手一投足に対して観戦している500人近い全校生徒から大歓声上がり、異様な盛り上がりが見られました。あの時の、普段の教室では見られない生徒たちや先生方の楽しそうな様子は、20年近く経過した今でもよく覚えています。

甲陽学院が、いつまでもそんな生徒の笑顔が満ちあふれる学校であり続けることを願いつつ、筆を置かせて頂きます。

退職にあたって

伊東 良孝



文化財保護行政の職員としての4年目、学校現場に戻りたいと考えている時に、機会を得て、翌1990年春甲陽学院に赴任しました。市立・県立の高校及び行政職で22年を経っていましたが、中学1年生の担当は経験がなく、当時のわが子よりも年少であったことから大変戸惑い、

教師というより親父になった気持ちで、毎日を過ごしたことを思い出します。入学当初朝礼前に照明も点けず薄暗い教室で黙って自席に座っていた生徒たちが1週間後には大声での指示も届かぬほど騒がしくなる教室、生徒55名の眼に加えて55名以上の保護者の方々の眼の前での授業となる中1の授業参観、掃除のとき椅子と机が一体となった木製座席を重そうに動かす生徒の姿、などが印象的でした。初年度は特に中1の授業での言葉づかいに工夫がいったことを思い出します。また、野球部の顧問として初めて甲関戦で1対2で負けたこと、悔しくてポロポロ泣いていた選手の顔、新校舎建設に伴うテニスコート移設のため改修されたグラウンドの新調されたバックネットの前での夏休み練習の最初の円陣など、野球部での活動もありました。

赴任から退職まで教諭21年・講師3年の計24年(中学在職19年・高校在職5年/担当分掌は生徒指導部・進学資料室・教務部)の間に、進学資料室ではセンター試験自己採点結果を集計し判定会議資料を準備した翌朝の阪神大震災、高校教務部では緊張感あふれる高校入試準備・実施、長く担当した生徒指導部では生徒諸君の登下校マナーに対する近隣から寄せられる苦情への対処や生徒諸君への指導法の工夫など、様々なことがありました。

中学校社会科では、1・2・3年生の全員に歴史や公民の授業を通して接することができましたが、高校地歴科世界史では高1以外の学年では教科選択の関係から、



学校だより



一部の生徒諸君とのみ授業で接することになりました。また、高校では世界史選択者には学習内容をかなり深く取り扱えたかと思いますが、中学校での歴史・公民分野では、かなり工夫をしたものの、その学習内容が現在の政治・経済・文化・思想などの基本的背景となるにもかかわらず、暗記科目であるとの生徒諸君の認識を十分に換え得なかったのではないかと残念に思われます。しかしこの間、教職員の皆様の温かいご厚情・ご協力・ご支援をいただき、素晴らしく優秀な生徒諸君とともに歩めたことを感謝するとともに誇りに思います。高校入試を止め中学校5学級編成という方式も軌道に乗り成果をあげつつあるように思います。来るべき創立百周年へ、更に次の百年に向けて、甲陽学院の力強い歩みが続きますようお祈り致します。尚、退職後は居住地域での地域活動に参加し、地域との共生をめざす所存です。長きにわたり本当にありがとうございました。お礼申し上げます。これをもちまして退職の挨拶とさせていただきます。

りましたメッセージを掲載させていただきます。
(溝口貴浩 記)

甲陽学院高等学校の皆様へ

貴校に初めて伺わせていただき、招待ゲストとして貴校の伝統ある音楽会で演奏させていただけたことは、私にとって大変名誉なことでした。

とくに、ユーフォニウム奏者として初めてお招きいただき、ご親切にいただいたことは、自身の想像を超えた喜びでした。あんなに多くの聴衆に囲まれ、その方々が演奏会前まで馴染みのなかったであろうほとんどの曲に込えてくださったことに、大変感激いたします。

あの場にいらっしゃった皆さん、私たち奏者も演奏会の最後に楽しませていただいたことを覚えておいてください。そして会場前方に座っていた若者たちの笑顔、私は忘れることはないでしょう。

また、終演後に貴校関係者の方々とお目にかかれたことも大変光栄で、貴校の皆さんが歴史や伝統を誇りとしていらっしゃることがよく分かりました。そしてその体系や規律の意識が、すべての生徒さんたちに授けられているようでした。演奏会後に何名かの生徒さんたちと写真を撮ったことも、とても嬉しかったです。私は彼らの将来の成功を願っています。

末筆となりますが、素晴らしい企画・構成と、訪問時の皆様のご親切に心より御礼申し上げます。またお目にかかれますことを心より願っています。

教授 スティーヴン・ミード
インターナショナル・ユーフォニウム・ソロイスト

創立記念音楽会

去る4月29日(火・祝)に本学院高等学校講堂に於いて、創立記念音楽会が行われました。今年、ユーフォニアムの第一人者であるスティーヴン・ミード氏をお招きし、藤原亜美さんのピアノ伴奏でのユーフォニウム・リサイタルという大変珍しい演奏会でした。当日は雨模様だったにも関わらず多くの方がお越し下さいました。

プログラムは「愛の挨拶」や「わらべうた春秋」など広く親しまれている曲から、ユーフォニウム・ソロのために書かれた作品など様々で、たくさんのお客様に楽しんでいただけるようにというミード氏の心配りが感じられるものでした。

中でも前半最後の「パントマイム」はミード氏の為に書かれた曲で、短い曲ながら伸びやかな音色、幅広い音域、細かく早いパッセージなどユーフォニウムが得意とする分野が凝縮されていて、ミード氏の超絶技巧と豊かな表現力に圧倒された一曲でした。

後半は前半とは違う衣装での登場。「ハミングバード」は男声のハミングに合わせて演奏するという変わった趣向で、「ラプソディア―ガーシュウィン・メドレー」はミード氏の編曲で舞台上を右に左に移動しながら時にはピアノ椅子に座って伴奏(CD音源)のピアノに合わせて弾くふりをして笑いを誘ったりと様々な演出で聴衆を魅了しました。

アンコールの「アーバックルニャン・ポルカ」では、演奏の途中で客席に降りて持参のデジカメで、お客さんと記念撮影をするファン・サービス！最後の最後まで会場は笑顔で包まれました。

ミード氏のエンターテイナーとしての、そして音楽の表現者としての魅力を存分に楽しめた一時でした。そしてユーフォニウムという楽器はこんなことが出来るんだ、という驚きとともにこれからどのようにどこまで発展していくのだろうか、という可能性が楽しみになる演奏会となりました。

最後になりましたが、演奏会後にミード氏からお預か



山内英正先生 最後の授業&パーティ

長らく甲陽学院の教壇に立ってこられた山内英正先生が定年退職されるにあたり、2014年3月30日(日)ノボテル甲子園において58回生から91回生が集まり「最後の授業」とパーティが行われました。

「最後の授業」では文字通り「最後」の授業を受けました。授業は例の調子で内容盛りだくさん、かつ早口で行われ、もちろん大幅に時間延長されました。授業の様子はその全部をYOUTUBEにアップしてありますので「山内英正先生」で検索してご覧いただければ幸いです。

パーティは乾正人さん(62回・産経新聞編集長)の乾杯の音頭で始まり、中西寛さん(62回・京都大学教授)の回想を交えたスピーチの後、先生の担任学年である68回生と75回生がステージに上がり、全員が思い出話や笑い話を語り、和やかな雰囲気で行われました。

当日参加された神代浩さん(62回・文化庁文化財部伝統文化課長)より寄稿をいただきましたので掲載させていただきます。

「山内英正先生 最後の授業&パーティ」に出席して 神代 浩

山内英正先生は1973年4月に甲陽学院の教壇に立って以来、40年以上にわたって日本史、地理などを指導して来られました。本年3月をもって定年退職されるに当たり、かつての教え子約60人が最後の授業を受けるとともに、感謝の気持ちをお伝えするパーティを開きました。

「史料との対話―回顧と展望―」と題された授業では、採用当初に出会った諸先生方の教えに圧倒されつつも、すぐに「甲陽アカデミズム」を十二分に受け継ぎ、走り続けてこられた軌跡が披露されました。

先生の研究テーマは自由民権運動、地域史から万葉歌碑、そして甲陽学院の学校史にまで及びます(私事ですが東日本大震災からの教育復興に関する書籍を編集した折、先生に阪神淡路大震災後の私立学校の復興について寄稿いただきました)。

山内先生は恩師である犬養孝先生の「事実の真実と心情の真実とは異なる。」との教えを忠実に守り、資料をとことん収集し、二つの真実を突き止めるまで資料に向き合われました。先生の語り口は少し落ち着いたように聞こえますが、長年の研究成果に裏付けられた言説の一つ一つが凄みを帯びて伝わってきます。私を含め白髪混じりも目立つ出席者たちはみな、中学・高校生の頃にタイムスリップしていました。

パーティでは教え子たちからの思い出話が続きました。日本の白地図にひたすら地名を書いていく試験、満点が100点を超えていたこと、「無知としか言いようがありません」など名言の数々、そして一部の生徒たちは毎年正月に先生の家へ押しかけ、奥様の手料理に舌鼓を打ち2

人のお嬢様(立派に成人して出席されていました)の遊び相手をしたこと、さらに教え子の多くに(筆者を含め)先生の収集癖が伝染し、家族に多大な迷惑をかけているらしいことなどなど。山内先生、長い間大変お疲れ様でした。ありがとうございました。



今村岳司氏(72回) 西宮市長に就任

今年の4月に実施された西宮市長選挙で、72回の今村岳司氏が当選されました。市長就任後間もない今村氏から御寄稿いただきましたので、以下に掲載いたします。

■被災して政治家を志す

大学四年の一月、阪神大震災で罹災しました。育った家が焼けたことや、子供のころの写真が一枚もないことなんかはさっさと諦めがつきましたが、自分探しのボランティアに興味津々「惨めな被災者」扱いされたことや、大学教授に「家が焼けただけだから試験は受けに来い」と言われたことは、心に深く傷を付けました。被災者以外が被災者のことを理解してくれるのではないかと期待した愚かさを情けなく、悔しく思いました。そんなとき、規律の正しい自衛官、遠くのまちの名前の書かれた車に乗ってきた消防士、自分たちも被災者なのに被災者のために活動する公務員の姿に、私は救われました。彼らだけは被災者の味方でした。日本と地域のためにプロとして日々厳しい任務に就く彼らは、きらきらしていました。日本と地域のために生きたいと思った私は、政治家になることに決めました。家が焼けても、何があっても、びくともしないような誇りに満ちた人生が欲しいと思いました。

大学を卒業してサラリーマンになって2年目に、私は西宮市議会議員の選挙に立候補することを決意しました。輪転機でチラシを刷って全戸に配り、毎朝駅に立つ。それだけが、支持団体も金もない26歳の私にできる政治でした。そして、初めての選挙でトップ当選、私は政治家になりました。

■アサヒビール工場跡地問題で市長選挙立候補を決意

市議会議員として活動をするなかで、少しずつ議会の改革も進みだし、自分で提案した政策をかたちにしていくようなこともできるようになりました。しかし、徐々に、議会の限界を知るようにもなりました。議会はどこまでいっても過半数でやっと動くところです。自分ひとりががんばっても、議会の過半数を巻き込めなければ議会は動かないのです。

すべての議員たちが西宮のためにはたらいっているわけではありません。ほんらいの市議会議員の仕事は、行政を厳しく監視し、政策推進の方向性を決断するというものはずです。それが、憲法に定められた「二元代表制」の期待する地方自治です。しかし、そのような理想論は、多くの議員にとってどうでもいいことでした。彼らは自分の支援団体のもってきた陳情ごとを市長に飲んでもらう代わりに、市長に阿る態度を崩すことはないのです。

議員として活動して3期目の途中で就任した市長は、これまでの市長よりさらに暴走をエスカレートさせるようになりました。

平成22年の9月に、アサヒビール株式会社は西宮工

場の撤退を発表しました。その1年後の平成23年、市は突然その約10haの土地のうち3.8haを購入して公共施設の整備をするという計画を発表しました。どこの自治体でも、これまで必要以上に整備してきた公共施設の維持補修費は財政を圧迫しています。そのうえ、大量に市が保有している土地のなかには有効に利用されていない土地もたくさんあります。新たに土地を取得しての公共事業など、時代遅れも甚だしい愚策です。いかにも「自分の在任中に大規模な施設整備をしたい」という市長の興味から出た事業でした。

しかも、その公共施設の目玉とされたのが市立病院でした。現在の西宮には400床の県立西宮病院と、257床の西宮市立中央病院があります。市立病院は、その中途半端な規模もあって、公的医療に期待されるべき「民間医療機関による提供が困難な医療」が提供できているとは言えず、慢性的な経営難に陥っていました。議会では、この病院のありかたについて厳しい議論がおこなわれ、経営健全化と公的病院としての役割の明確化が議論されていました。そんななかで、私は多くの医療関係者への取材から、県立病院との統合による基幹病院化をおこなうべきだと主張していました。しかし、病院のあり方に関する議論はお茶を濁したままに、「病院の新築移転」という、いかにも大衆ウケしそうな事業を「自分が市長のときに」実現したいという思いが先走っていました。

議会でも当初は、この事業について拙速であるという意見のほうが過半数をこえていました。しかし、市長側は頑なな態度を崩しませんでした。そして、「他の議員たちが見て見ぬふりをするなら私が」と、議会の議論をリードしていくうちに、市長に阿る議員たちとの軋轢も目立つようになりました。そしてとうとう、平成26年度予算にアサヒビールの工場跡地を購入する予算が計上されることが確実という情勢になってしまいました。そうなれば、莫大な税金が浪費されるばかりか、西宮の公的医療を何十年遅らせてしまうことになります。

私は議員としてできることの限界がここにあることを悟りました。26歳いらい、長くおあずかりした議席を謹んで西宮にお返しすることを決意しました。それしか、この暴走を止める手段はないと考えました。

平成25年の1月に活動を開始しました。毎平日の早朝駅でチラシを配りました。日中は市内20万世帯にポスティングをおこないました。チラシに反応して連絡をくれた人に会いに行って市政相談に乗りました。平成26年に入ってから、市内50箇所以上で集会を開催し、いわゆる「動員」なしで1,800人に政策を語りました。全財産を注ぎ込んで、1年4ヶ月の活動で市内に200万

枚以上のチラシを配りました。

一方の現職候補は、自公民どころか共産党も実質支援、さらには150の団体推薦と、42人中30人以上の市議の応援がつかしました。それまで10年に亘って議会活動を共にしてきたながら、現職市長に弓を引くことを恐れて活動会派を離脱した議員もいました。私に対するたいへんなネガティブキャンペーンも展開されました。

現職側の圧倒的な組織選挙。「政治通」を自称する人たちはほぼすべてが「政治を決めるのは組織・今村は負けるだろう」と言いました。

■市長としての厳しい船出

4月20日におこなわれた市長選挙で、「アサヒビール工場跡地の土地取得と公共施設整備・市立中央病院の移転新築、そのそれぞれの白紙撤回」を訴えた私は、大方の予想を裏切って当選しました。現職派の議員たちがあてにしていた「組織票」も、自分たちの判断で政策と政治家を選んで投票したのです。

選挙が終わって2ヶ月後の6月には議会も始まりましたが、私が所属していた会派を除く各会派とは厳しいやりとりになりました。一部の会派からは、選挙をそのまま引きずって、単なる個人攻撃のような議会質問もされました。「アサヒビール工場跡地の土地取得と公共施設整備の白紙撤回」を撤回するよう求める決議も議会の30名以上の議員の連名で提出されました。

もし、私が議会の圧力に負けて「白紙撤回」を撤回するようなことがあれば、議会はスムーズに進行するでしょう。そして、私もきっと楽でしょう。ただ、西宮市民はもう、選挙では何も変えられないのだと思うでしょう。それだけは、ぜったいにしてはならないことなのです。厳しい市政運営など、市長選挙に立候補をしなければいけないと決断した時点でわかっていたことです。選挙はただの始まり。選挙に勝っただけで変わるような簡単な政治などないのです。

選挙期間突入直前、身体の疲労と、選挙が近づく恐怖が限界に達しつつあるころ、こう思いました。

「当選すれば西宮を守ることができるけれど、私はいまより苦しい時間をさらに過ごすことになる。落選すれば西宮を守ることができないけれど、私は金輪際こんな苦痛から開放される。私には、どちらにも逃げるところはない。」結果、私は当選し、さらに苦しい時間を過ごすことになりました。

私が議場で侮辱され、マスコミにおもしろがって叩かれて、それで西宮の政治が守られるならば、それは本望です。政治家とは、そういう仕事です。

ただ、これまでの閉塞感あふれる役所で働いていた職員たちは、合理的で機動的で風通しのよくなった職場の雰囲気を楽しんでくれています。何も私は一人ですべてと対峙しているわけではなく、西宮市職員たちとともに(もちろん、あたらしい政治を期待したたくさんの西宮市民とともに)困難に向かっていっているのです。

■すべては、あしたの西宮のために。

西宮は明治末期から住宅開発が行われ、古くから上質で暮らしやすい住宅地として愛されてきました。今も、便利な立地、落ち着いた環境などを理由として、「住みたい街ランキング」で関西の1位に選ばれる街です。

しかしながら、共働き世帯の増加や高齢化の進展などに、行政サービスが追いついていないのです。運動場の平均面積は児童一人当たり9.62平米であり、全国平均の30.0平米に比べて極端に狭く、休み時間には安全面に配慮して児童を学年等で分けて運動場を使用するなどの制約が生じています。多くの小学校では、子供たちがのびのびと活動できていないのです。

また、医療環境の脆弱さ、南海トラフ地震と津波への対応、さらに、より複雑化する行政需要に対応するために、限られた経営資源を効率よく活用し、持続可能な行政運営を行っていく必要があります。それに、なんといっても、アサヒビール工場跡地計画に代表されるこれまでの失政の「尻ぬぐい」をして、正常な政治を取り戻すことが第一ですから、西宮の未来に夢を描くしごとに取りかかれるのは、まだ先になります。

政治家とは、実績を残してみんなに感謝されたり尊敬されたりするような仕事ではありません。震災のときに私がみた自衛官や消防士や公務員たちのように、無責任な住民の罵声をいくら浴びせられようとも、ただ使命のためにはたらくのが政治家です。

昭和38年、故辰馬龍雄氏(元辰馬育英会理事長)は、西宮の海を埋め立てて石油化学コンビナートを誘致しようとしていた当時の現職市長を破って市長になりました。西宮の美しい環境は守られ、西宮は文教住宅都市宣言をしました。現職市長を破って市長が替わるのは、これいらい51年ぶりのことでした。

文教住宅都市西宮には敬意を払うべき歴史があります。今村岳司という政治家がいなくなろうが、西宮の文化と政治は生き続けます。私は西宮の歴史のある一箇所で、ある役割を担っているに過ぎません。この甲陽学院を抱いて育ててきた西宮の歴史からもらった役割を果たし、次の時代の政治へ繋ぐことこそが、私の使命なのです。

すべては、あしたの西宮のために。

.....

(プロフィール)

甲陽学院72回生～京都大学
法学部卒
高校在学中は長髪にしてバンド
活動に明け暮れる。大学在学中は
浜学園算数科講師として活動。(株)リクルートを経て平成11年の西宮市議選で26歳
トップ当選。市議を4期務め、平成26年4月より現職。

<http://xdl.jp/>



リレーエッセー

甲子園で会いましょう

64回 谷本 修



33年前の第63回全国高等学校野球選手権兵庫大会の開会式で甲子園球場を行進する甲陽野球部の写真が残っています。当時は兵庫大会の特典で、私のような「へっぽこ」球児でも甲子園の土を踏むことができたのですが、他府県からの批判も多く取りやめになったと聞いていま

す。この体験に満足してではないのですが、2年生の夏で野球部を退いたことを今でも少し後悔しています。

「君、心臓やね。」これはその頃、朝一番の数学の授業で、山下正昭先生(現校長先生)から投げられかけられたお言葉です。蛇に睨まれた蛙状態で、担当の演習問題を、黒板の前で解こうと悪戦苦闘している坊主頭の私は、先生の目にはどう映っていたのでしょうか。甲陽でのクラブ活動と勉学の両立は当時でも大変だった記憶です。その後も、自信のない試験の前や、社会人になって暫くは「難問」を抱える度に、「山下先生のお言葉に悶絶しそうな自分」の夢を見ては、飛び起きておりました。先生方の厳しくも暖かいご指導、優秀な先輩方・同級生、それに甲陽園駅からの坂道は、間違いなく私の「ハート」を鍛えてくれたと思います。甲陽での日々は私の宝物です。

現在、私は阪神甲子園球場長に就き、冒頭の入場行進から30年以上を経て、球児の憧れの舞台である「甲子園の土」を再度踏みしめる好運を得ています。本年8月1日が球場開設90周年の誕生日に当たるという理由で、栄えある甲陽だよりの第90号に寄稿する機会にも恵まれました。

当球場は、フェンウェイ・パーク(1912年開設、ボストン・レッドソックスの本拠地)、リグレーフィールド(1914年開設、シカゴ・カブスの本拠地)に次いで、現存するプロ野球場では世界で3番目に古い球場です。「甲子園」という名前は、完成した1924年(大正13年)の十干と十二支が、ともに先頭の「甲(きのえ)」と「子(ね)」であったことから、「60年に一度の縁起の良い年」として名付けられたことが知られています。

甲陽と甲子園との歴史的な繋がりは大変深いものがあります。甲陽中学が全国中等学校優勝野球大会で夏3連覇をかけた和歌山中学を5対2で退け、初出場初優勝を飾ったのが、1923年の第9回大会です。この大会の準決勝戦は、日曜日に行われ、甲陽中学は立命館中学に13対5で勝ちますが、超満員の観衆がグラウンドに溢れ、試合が長時間中断する事件が発生します。大会史等によると、この事件を契機に、阪神電気鉄道はこの年まで7年間使用した「鳴尾球場」での大会継続を断念、世界水準の大球場の建設を決意し、翌1924年の第10回大会から、甲子園球場での開催となりました。

悲惨な戦争を経て、プロ野球も盛んになります。内田雅也氏執筆の『若林忠志が見た夢』(彩流社)には、甲陽中学優勝時の立役者で後の野球部監督の山野井萬氏、タイガース・ダイナマイト打線の中軸を担う別当薫氏、ラッキーゾーンを最初に採用した辰馬龍雄氏(阪神電気鉄道本社の球場担当で後の西宮市長、辰馬育英会理事長)ほか、甲陽と縁のある先輩方が多数登場されます。山野井氏は、戦後の若林忠志タイガース監督兼投手(1964年に野球殿堂入り)の活動を様々な面で支えておられたことも記されており、高校時代、夏の大会前に同氏から直接激励のお言葉を頂いた世代としては、感慨深いものがございます。甲陽OBの球場長は、私が初めてではなく、多くの甲陽関係者が、阪神電鉄グループの歴史に、お名前を連ねておられます。諸先輩方が積み重ねられた礎があればこそ、多くの野球ファンから熱狂的なご支持を得る今の姿があるのだと思い、頭が下がります。

さて、2007年10月からは、「歴史と伝統の継承」、「安全性の向上」、「快適性の向上」をコンセプトに、3年に亘るリニューアル工事を実施し、甲子園球場は生まれ変わりました。銀傘に敷き詰めた約1,600枚の太陽光パネルは、年間の発電量が約193,000kwhに上り、この数字は阪神タイガースが甲子園で行うナイトゲームで使用する照明の電力量に相当します。銀傘下には、バルコニー席付きの観覧室「ロイヤルスイート」を新設し、契約企業様には、関西経済界の社交場のようにご利用いただいています。各界の甲陽OBにもお目にかかることが多く、今回の寄稿も、熱烈な虎党でいらっしやる久義裕先輩(62回)からのご紹介がきっかけでした。リニューアルとともに誕生した「甲子園歴史館」には、甲陽中学優勝を称える「竿頭綬」が常設展示されていますが、今年の7月29日から9月7日には、企画展「初出場・初優勝校特集」を開催し、母校の栄誉を改めてお示しします。

今年に入り、台湾では日本統治下の1931年に嘉義農林学校(現在の国立嘉義大学)が夏の甲子園大会で準優勝した実話に基づく映画『KANO』が同国史上最高のヒットを記録し、ガーナでは「甲子園」を冠した本格的野球場が完成する等、知名度が上がったこともあり、海外からのお客さまのご来場が増えています。『KANO』は今冬には日本でも公開、同時期には全国の元球児が世代を超えて甲子園球場で白球を追いかける「マスターズ甲子園」を題材とした映画『アゲイン 28年目の甲子園』も封切り予定で、様々な国・世代に「憧れの舞台 甲子園」が広がればと期待しています。

2015年は高校野球100周年、阪神タイガース創設80年の記念の年です。阪神園芸(株)社長の山村務先輩(54回)とともに「夢の舞台」をさらに磨いて参りたいと思います。

もちろん、母校の野球部が権浩一監督(61回)のご指導のもと、甲子園の土を踏む日が近いことを祈っています。皆さん、甲子園で会いましょう。

原稿は出来る限り4000字詰原稿用紙1枚以内にして下さい。原則として原稿(含写真)は返却いたしませんので御了承下さい。

会員だより



22回 桜永会

平成26年5月22日梅田阪急ターミナルビル17階「有馬」にて高木君のお世話で例年通り開催。

今回は残念乍ら常連の2名(伊藤君、堀部君)が不参加。通常8名のところ6名となりました。(勝本君は広島より参加)永井勇一先生ご存命中からの会で、来年は90歳を迎えんとする長寿の会。甲陽ギネス?に登録願いたいぐらい。(自画自賛)

全員元気に歓談し、次は東京オリンピックを目標にお互い健康に注意して、来年5月の再会を約して散会しました。(傍島 記)



写真は左より(前列)斎藤、傍島、高木 (後列)小林、勝本、大西です。

☆「会報・甲陽だより」の原稿募集☆

- *次号・第91号は、来年2月末頃に発行を予定しています。
- *「会員だより(同期会・クラス会)」・「運動部・文化部のOB会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。
- *原稿の締切日は、来年1月10日です。

25回 天文会(S20年卒 橋組)

平成26年4月20日(日)晴天の午後今年も梅田の阪急グランドビル28階グランドビル「司」(日本料理)にて開催致しました。

今回は、出席予定だった、浅香君が患者さんの、ノロウイルスの発生により、又新見、州崎両君の、奥方の体調不良による、3君の欠席にて、初めての4名での例会になりました。来年は又楽しめるのではと思っておりましたが、4月の始めに葉書が来ていなかったの、村上宗徳君に電話をしたら、娘さんが父は、直腸ガンで肝臓等にも転移して、余命1~2週間との事でしたが、5月10日に、宇野さん(娘さん)より電話で、4月20日に亡くなりましたとお話しに、お悔やみを申し上げて電話をきりました。

4名での寂しい同窓会ながらも約2時間、歓談、飲食を楽しみました。最後にお互いに健康に気を付けて、来年も元気で再会出来る事を誓い合って、散会致しました。来年も4月20日の開催を「司」にて行うことに決定しましたが、何名となるのか?

猶当日の出席者は下記の4名です。

(波々伯部 繁 記)

追伸

猶 故村上君の訃報は、集合写真の発送にて、お伝えしました。



左より 森山泰史、波々伯部繁、村上誠一、押目圭市

来れ!! 新制1期・2期・3期諸君に告ぐ。

高校卒業60周年記念連続3年間合同同窓会

第2回開催年月日; 2014年10月25日(土) PM12:30~15:30

場所; 旧高校跡地 ↔ ノホテル甲子園(0798-45-3105)

- 各回幹事; 34回 奈良節雄・水野 寛・吉田忠二
- 35回 沢井 陽・三木正之・広本 健
- 36回 原 謙三・西村善明・杉野修三
- 代表幹事; 35回 尾山啓二

36回 同窓会

今年も36回生同窓会を5月15日にホテル竹園芦屋で行いました。

恒例の同窓会前の講演は、但井浩二君が日本での普及に力を入れている「コントラクトブリッジ」について話してくれました。日本ではまだマイナーなゲームですが、欧米ではかなり盛んに行われており、2人ずつペアを組み4人がテーブルを囲んで勝負をするとのこと。日本で勝負といえば、将棋とか、柔道とか、相撲などのように一対一で行うのが一般的ですが、ブリッジの方は、ペアを組んだ2人が作戦を練って、敵対する2人に勝負を挑む方式なので、彼我のメンタリティーの違いを象徴しているとのこと、成程と納得した次第です。

この後、カリフォルニアのサンディエゴから遙々馳せ参じてくれた医師の浦野宗保君の音頭で「我々はすでに78年程の長い年月を生きてきたが、残りの人生に乾杯」して、宴会に移りました。食事は講演に因んでシャンパンにはじまる洋食。この間の各人の近況報告は例年のごとく病気や孫の話が中心でしたが、和やかに校歌や応援歌を歌ったあと、竹園ホテルの最上階に席を移し、夜景を見ながら二次会を楽しみ散会しました。

翌日は中川博二君のアレンジによる恒例のゴルフコンペを芦屋カントリーで行い、テレビのゴルフ解説でも有名な大西久光君が腰痛にもかかわらず優勝しました。

出席者は、ゴルフまで含めて都合27名でした。毎年出席する顔ぶれはやや固定化しており、久しく会っていない諸兄の参加を促す方策はなかったのか、幹事として反省しています。

(H26年度幹事：丸野、稲松、石原)



55・61回合同 岩尾先生の米寿を祝う会

平成26年3月21日(金=祝)大阪・福島のホテル阪神において、55回と61回の卒業生有志合同で、中学～高校の恩師である(通称鬼の)岩尾政利先生の「米寿お祝いの会」を開催しました。昭和43年4月に甲陽中学へ赴任してこられた際に、初めて受け持たれたのが55回、そしてその55回の高卒卒業と同時に中学入学となったの

が61回ですが、先生が中高6年間を通じて担任を務められたのは、実はこの2学年しかありません。55回と61回の間には、実の兄弟関係とか、家庭教師と生徒の師弟関係とか、また「大阪まちづくりの集い」の事務局繋がりとか、少なからぬ御縁があり、この度は是非合同で実施しようということになったものです。

彼岸三連休の初日ということで、東京から馳せ参じた卒業生もあり、55回が38名、61回が17名、計55名の参加を得て、盛大に開催することになりましたが、先生は中学高校時代と変わらぬ矍鑠ダンディ然とした御様子で、この5月で満88歳を迎えられるとは思えぬ御健勝ぶりに参加者一同驚いておりました。

現在中学の教頭を務める55回・大川貴史君の乾杯発声でスタートした会は、「出席簿の角」や「短文の暗唱テスト」といった定番ネタから、知る人ぞ知る「秘話」まで、さまざまな思い出話を出席者に御披露頂き、最後は皆で先生を囲み「学院歌斉唱」で幕を閉じました。

2年後の「卒寿お祝い会」で、また先生のお元気なお姿を拝見できますよう、一同切に祈っております。

(世話役代表) 55回・児玉 潔 / 61回・新谷弘道



55回 「55回生会ゴルフ」は毎年5月5日に

第3回「55回生会親睦ゴルフ」を今年も5月5日(祝)に宝塚高原ゴルフクラブにて、関東・名古屋からの4名を含む22名のご参加で開催しました。うち7名が初参加で昨年比大幅増となり幹事としても大変嬉しい限りです。参加者(敬称略)は、

- A組：鈴木博正、西本憲生、藤田裕之
- B組：上原一浩、大塚雄一、糟谷武則、清見敏郎、坂本和則、曾根裕文、西村盾彦、矢戸秀成
- C組：石見勝弘、菅原康雄、山崎聡一、横田敬介
- D組：大島敏郎、岡田 清、金丸太一、児玉 潔、三代知史、小島 卓

当日は生憎の雨模様でしたが和気あいあいとゴルフを楽しみ(スコアも80台から130台まで幅広く)、懇親会では初参加の方々を中心にした近況報告やクラブ寄贈景品争奪じゃんけん大会等で大いに盛り上がりました(優勝は金丸太一さん)。

このゴルフ会は「55回生」に因んで毎年「5月5日」に、

阪神地区からほど近い「宝塚高原ゴルフクラブ」で「70歳まではみんな元気にゴルフを楽しもう」を合言葉に、小島が永年幹事を務めて開催しております。

来年も2月頃に岩田さん管理の55回生メーリングリストでご案内いたしますので、ゴルフの腕前に関係なく是非多数の55回生の皆様のご参加をお待ちしております。
(幹事 小島卓)



第2回 関西甲陽ネット開催

5月17日(土)大阪梅田にて開催した第2回関西甲陽ネットには、45回生の西村貞一甲陽学院同窓会会長から、94回生の柳友斗さん、堀尾亮太さんまで、合計68名ものOBの皆様にお集まり頂きました。

今回は、二部構成とさせて頂き、第一部として、日本銀行大阪支店副支店長(現・金融機構局審議役)の長野聡さん(62回)より、「日本経済と現状と今後—豊か?に暮らし続けるために」というテーマでお話し頂きました。アベノミクスの実態、安部首相が今後どのような施策を取っていくべきなのかという現在・短期的な経済の動きだけでなく、少子高齢化・グローバル化の問題を抱えた日本経済の先行き・課題、今後幸せになるために日本人はどのように考え、行動していかなければならないのかという中長期的な展望、生き方・考え方にまでお話しが及びました。

第二部では、暑い中、もつ鍋屋でお互いの顔を突き合わせる形で懇親会を行いました。懇親会では、西村会長のご挨拶、西宮市長選挙に当選した今村岳司さん(72回)紹介の後、懇談に移りました。店内ではそこかしこで笑い声が響き渡り、3時間があっという間に過ぎてしまう大変な盛況となりました。

次回は11月若しくは12月に開催を予定しております、今後も甲陽OBの交流が広まり、深まる場をご提供できるよう努めますので、引き続きご支援賜りますと幸甚です。

< 82回 村上暢昭 >

世話人 75回 辛島理人 84回 岩野圭佑 92回 澤宏樹
ホームページ <http://kansai-koyo.net/>
メールアドレス staff@kansai-koyo.net



59・60回 サッカー部同窓会

ゴールデンウィーク中の5月4日の夕刻に、甲陽学院高校の跡地に建つノボテルホテル甲子園の中国料理「白鳳」にて、59回、60回卒のサッカー部の同窓会を行った。

同級生同士はこれまでに学年同窓会などでの再会があったが、学年の異なるサッカー部のメンバーでの再会は機会がなく、約36年ぶりの再会に会の最初から大いに盛り上がった。中学時代の指導者であり、サッカー部OB会長の中村貞三氏(35回卒)、高校時代の指導者である勝村弘也氏(46回卒)のご参加もいただき、各自の近況報告とサッカーに関する思い出などであっという間の一次会であった。勝村先生からは貴重な当時のサッカー部に関する写真や資料の提示もいただき、森さんからも昔の懐かしい写真を持参いただき、それらを見ながら話は最高に盛り上がった。その後はホテルのバー「櫛」にて二次会を行い、一部のメンバーは三次会へと流れて行った。59回生は翌日のゴルフも企画されており、親交の深さがみられた。今回の幹事役の庭屋さん、土井君には大変感謝するとともに、次回はもっと大きな会を計画したいため、幹事諸君には頑張っていたきたい。

参加者：35回卒：中村貞三、46回卒：勝村弘也、
59回卒：明星秀昭、高橋大介、東野 健、
庭屋和夫、前田 章、森 寛、
山崎文明、渡部茂樹、
60回卒：大林祐介、後藤章暢、澤近 功、
土井浩平、中山裕雄、山城一磨、
山村 彰 (学籍番号順)

60回卒 後藤章暢 記

第14回 甲陽同窓会ゴルフコンペ

平成26年4月27日(日)恒例の武庫ノ台GCにて春のコンペが開催されました。当日は気温も穏やかで、風もほとんどない絶好のゴルフ日和となりました。午前8時全員集合のもと、西村貞一会長(45回卒)より開会の挨拶を頂いた後、OUT・INに分かれ各組順次スタートしました。

【西村会長の挨拶】

「本日は良い天気恵まれ、皆様の日頃の行いが、よほど良いかと感心しております。私は、昨日雨が降る夢を見ました。本日もし雨が降れば私のせいだと思っただけならばよいと思いますが、今日の天気は今見渡す限り、全く問題ないと思われま。皆さん優勝めざして頑張ってください。」

快晴の春空に向けてのショットの音も遠く離れていても良く響き、隣のホールから各パーティーの和気藹藹な話し声もすべて聞き取れるほどの、本当に穏やかな一日でした。参加者皆さん途中脱落もなく無事ホールアウトされ、その後表彰式となりました。前回より、持ちハンディ制でなくダブルペリア方式になりましたが、今回は更にHC上限カットなしで順位を競い合うことになりました。100前後のスコアで回る人、またそれ以上のスコアの方も上位に入れる可能性のあるルールとしました。なんとネットスコア113の石渡秀二様が4位と上位に食い込み、見事商品をゲットしました。その他ブービー賞、当日賞、とび賞など順次発表があり沢山の人が商品がゲットしました。優勝・準優勝とも同スコアでしたが、年齢の順から、優勝は吉藤賢了氏(43回卒)、準優勝は平出到氏(56回卒)となりました。

【吉藤賢了氏のスピーチ】

「古希を迎えて益々飛距離が落ちてきましたので、スタート前には今日はティーグラウンドのゴールドを使うと決めていたのですが、パートナーの励ましでホワイトティーから打つことになりました。最近のスコアからすると優勝などというのはサプライズの一言です。敢えて申し上げるならば、今日は快晴無風で大変暖かかった事、初参加のため18ホールを通じて適度な緊張感を持ち続けられた事、そして何といてもWペリア方式での幸運なハンディに恵まれたのが大きい事だと思います。」

この甲陽学院同窓会ゴルフコンペは、少々敷居が高いと思っしり込みをしていた私でも実にスムーズに仲間に入れて貰えました。アットホームな雰囲気ですので他の同窓生の皆様にも、気軽に参加して頂くように声をかけたいと思います。私の高校時代の3年間は野球に明け暮れていました。特に夏の県予選の時、炎天下で朝から日没まで猛練習をしたことは忘れられません。半世紀以上前の事で記憶違いもあるかと思いますが、当時の母校はグラウンドが狭く、陸上部やサッカー部とグラウンドを共用し練習していました。内野が専門の私はともかく、センターを守っていた同期のK君の守備範囲は、しばしばサッカー部の練習エリアへ侵入し迷惑をおかけした事

を今でも申し訳なく思っています。

話はそれでしたが今回の優勝で、ゴルフに対して再びやる気が出てきました。野球部の先輩、後輩諸氏とはゴルフ等を通じて今も親交をいただいておりますが、さらに今後は健康寿命に気をつけて、同窓生の皆様との縦の交流も大切にしたいと考えています。」



幹事後記：幹事の60回卒の綿谷です。甲陽学院同窓会ゴルフコンペが以前からあったのに全く気づかずふとした同級生からの誘いに参加してから、1年に2回楽しいゴルフの時間を毎回楽しみにしています。2回前のコンペで運よく優勝させて頂いてから中村貞三様と吉井友実様に幹事のお手伝いを頼まれ、それ以後いつの間にか常任の幹事にさせられてしまいました。少ないゴルフ経験ですが、皆さんが楽しく回れるように、そして誰もが成績上位に食い込み喜ぶことができるようなゴルフコンペになるように、幹事として勤めていきたいと考えています。年配の卒業生も沢山参加されておられ、毎回その先輩方のゴールドティーからスタートしている姿を何気なしに見ていると、驚くなかれ、全くレギュラーティーからまわる後輩と同じスイング、これは真剣に回らなければと、スタートホールでいつも毎回気を引き締めさせられます。今回のダブルペリア方式を取り入れたことで、終了後多くの方から「自分も優勝できるかもしれない」「上位成績に食い込めそうなので練習します。もちろん次回も絶対参加します」などの言葉を頂き、幹事冥利につきます。まだまだ若い卒業生の参加が少ないようですが、だれでも優勝できるコンペとなっています。ふるって参加をお願いします。

次回(10月26日(日)武庫ノ台GCで開催)も晴天の中、楽しいゴルフコンペになるように期待しています。

【コンペ上位の結果】 (敬称略)

優勝：吉藤 賢了(43回卒) グロス 97 ネット 73
 2位：平出 到(56回卒) グロス 97 ネット 73
 3位：竹内陽史郎(59回卒) グロス 91 ネット 73

(同スコアのため甲陽ルールにより年齢上位優先で順位決定)

文責：綿谷 卓(60回)

サッカー部OB会

5月17日(土)神奈川県川崎市にある商船三井(株)グラウンドにて、甲陽学院サッカー部のOB会を開催しました。第一部は同社との親善試合。発起人である私の既知連絡網(メールアドレス)を基に呼びかけたところ、OBチームは全員50歳以上で13名集まりました。同年代のメンバーを揃えていただいた商船三井との試合は、2-1で惜敗しましたが、所々に中高時代の息の合ったプレーもあり、サッカーを楽しむことができました。第二部は、町田駅近くのレストランにて第一部に参加できなかった方々も駆けつけ、総勢18名での懇親会でした。冒頭、現OB会長35回中村貞三さんが、次期同会長に43回の南 聡さんを推薦され、満場一致で可決。懇親会での話題の中心は、甲関戦や灘中・高校との定期戦の試合の様子や練習が厳しかったこと等、懐かしい話に花が咲きました。今後は高校卒業したてのOB新会員まで参加者を広げていき、毎年開催していこうとの声があがりました。来年も同時期に、同時時間帯(関西からの日帰り参加が可能)に開催する予定です。中高のサッカー部に少しの期間でも在籍されていた方は、ご都合を合わせていただき、奮ってご参加ください。もちろん第二部のみの参加も大歓迎です。

(記 発起人 56回 門田英稔)

◇ ◇ ◇

かねてより東京在住の多くのサッカー部OBが居るのに、関西在住の諸君と交流する、競い合う行事が無いことに不満を感じていました。そんな中で、今年初の蹴り会(3日恒例)で門田英稔君(56回日産リーフ担当)が出席者に下のような名刺大の紙片を出席者に配り始めました。

甲陽サッカー部東京会(仮称)開催

開催期日：2014年5月17日 or 24日(土)

集 合：13:30

開催場所：商船三井グラウンド(最寄 小田急柿生駅)

【事務局】56回 門田英稔 かどた ひでとし

hidetoshi0705@jcom.home.ne.jp

080-3409-2642

まず同窓会副会長揚野寛君が「僕の同級が商船三井にいるので必ず参加します」と口火を切りました。今年は2014wcブラジルサッカーがありました。このサッカーOB会の交流が年1回の東西対抗戦の域まで昇華してくれることを期待します。

写真の名手・インターネットの博識家濱田洪一氏(41回)による当日の写真を掲載します。

(記 前OB会長 中村貞三)



「サントリー山崎蒸留所と 秋の京都・西山の紅葉と味覚を訪ねる」 甲陽学院同窓会 第2回会員交流会のご案内

これから迎える甲陽学院の創立百周年に向けて、同窓会活動の一層の活性化のため。昨年、社会勉強や人脈ネットワークづくりに資するとともに、タイムリーにきめ細かく交流を図る場として会員交流会を設けました。その第2回として、同窓の佐治信忠会長が売り上げ4兆円のグローバル企業を目指すサントリーの「やってみなはれ」スピリッツに触れようと、その原点である山崎蒸留所見学会を企画しました。あわせて秋の京都・西山の紅葉と味覚を訪ねます。ふるってご参加をください。

<記>

- 開催日 11月22日(土)大阪中央郵便局前集合
午前9時出発
- 交通 商都交通の貸切バスで現地へ
- サントリー山崎蒸留所(大阪府三島郡島本町山崎5-2-1
TEL075-962-1423)を見学しサントリースピリッツを実感する
- 昼食 京料理 いっぶく亭(長岡京市粟生西条4-1
TEL075-954-7777)で秋の味覚を味わう
- 観光 京都・西山三山の光明寺と善峰寺の紅葉を訪ねる
- 会費 8,000円 定員 先着28名
- 申込先 甲陽学院同窓会事務局「第2回会員交流会」
係 宛 662-0096 西宮市角石町3-138
FAX 0798(71)4890
メール fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp
葉書~FAX~メールにて申し込みください

今すぐご予約を！ 夏の会員総会申込方法

日時 平成26年8月30日(土)

※当日の料理・名札の準備がありますので、できるだけ事前振込ご予約をお願いいたします。

第1部 13時～14時30分

第2部 14時45分～16時30分

申込先・問い合わせ

会場 ノホテル甲子園 TEL0798-48-1111

甲陽学院同窓会事務局

西宮市甲子園高潮町3-20

〒662-0096 西宮市角石町3-138

阪神電車甲子園駅西口下車すぐ

TEL 0798-71-4888(月・水・木・金 10時～16時)

会費 一般会員 6,500円(当日会費)

FAX 0798-71-4890

学生会員 2,000円(当日会費)

メール fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

同伴家族 2,000円(当日会費)

※8月12日～19日は母校の夏期閉鎖期間となるため同窓会事務局も閉鎖となります。

新卒者(平成26年3月卒業95回生) 無料

申込方法 同封の振込用紙で、8月20日(水)までに会費をお振込み下さい。

☆まだまだ暑い頃ですので、当日はカジュアルな服装でご参加ください。

または8月25日(月)までに事務局へ参加のご予約を下さい。(葉書、電話、FAX、メールにて)ご予約の場合は特別割引として、一般会員は6,000円、学生・同伴家族は1,500円とさせていただきます。

☆平成15年の役員総会の決議で、新卒者以外の無料会員の制度が廃止になりました。上記の会費で運営いたしたく、ご了承下さいますようお願い申し上げます。

※卒業50周年のホームカミング学年(45回生)はA、B、C各クラスのホームカミング委員に参加申込みの連絡をしてください。

「甲陽史学会のお知らせ」

平成26年8月30日(土)午前10時より正午まで「甲陽史学会」を開催いたします。報告者は京都橋大学現代ビジネス学部教授五十川伸矢さん(50回)、テーマは「日本鐘は、どのように形成されたか——東アジアにおける文化交流——」です。同窓生の皆さんのお越しをお待ちしています。参加希望者は橋本(42回)までご連絡ください(TEL/FAX0798-47-8574)。

訃報

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

(平成26年5月31日現在)

石田 晴男氏	赤松 隆雄氏	福田 稔氏	永友 利博氏	中野 修氏	大仁 勲氏	鈴木 貞雄氏	田中 完氏	田中 親七氏
(21回)	(21回)	(20回)	(20回)	(19回)	(18回)	(15回)	(12回)	(11回)
13年12月24日	13年11月14日	12年9月14日	13年3月10日	13年6月30日	12年10月31日	13年9月11日	13年10月26日	13年7月30日

藤田 民夫氏	飯野 一衛氏	家島 靖暢氏	笠原 弘志氏	大東 憲雄氏	谷山 幸三氏	鈴木 理氏	久保田 賢彦氏	太田 成三氏	平野 義二氏	米浪 平記氏	林 一郎氏	栗野 紘幸氏	平岡 義雄氏	藤森 明氏	加藤 元春氏	小林 茂秋氏	樋口 義也氏	北村 誠造氏	桐原 弘行氏	木村 範道氏	天羽 豊治氏	足立 宜久氏	山本 喜典氏	木下周吉郎氏	橋岡 光隆氏	長屋 毅氏	金山 直史氏	緒方 脩作氏	稲田 太氏	芦田 幸茂氏	白木 信光氏	上谷 卓朗氏	細川 茂樹氏
(工専2)	(工専1)	(工専2)	(工専1)	(高商2)	(高商1)	(94回)	(90回)	(47回)	(45回)	(45回)	(40回)	(40回)	(38回)	(37回)	(35回)	(33回)	(32回)	(31回)	(29回)	(28回)	(27回)	(27回)	(25回)	(24回)	(23回)	(23回)	(23回)	(23回)	(23回)	(22回)	(22回)	(21回)	
13年9月11日	13年9月11日	14年1月29日	13年12月3日	13年4月28日	13年10月8日	14年4月8日	14年2月28日	09年4月13日	14年5月31日	08年	13年12月24日	14年4月12日	14年1月19日	14年2月2日	13年9月15日	10年10月11日	13年10月25日	14年5月23日	13年10月10日	12年10月7日	13年10月11日	14年4月18日	13年12月5日	14年2月17日	09年2月11日	14年2月7日	13年2月8日	13年10月20日	12年12月24日	10年7月26日	13年11月27日	13年5月2日	13年6月11日